## お彼岸法要の起源とは

○もともとは、**あるひとりの人の霊魂を鎮めるための行事であった**とされています。
事の起こりは『**日本後紀**』、**延暦二十五年（８０６年）**の**２月**の記録に、
「毎年春分と秋分を中心とした前後７日間『**金剛般若波羅蜜多経**』を**崇道**（すどう）**天皇**のために**転読**させた」とあり、これが**日本の歴史上最初のお彼岸法要の記録**です。
※**転読**とは、**経本（巻物）を１巻１巻、正面に広げて読む事**で、普通より効果・ありがたさがさらによくなるものです。

**○崇道（すどう）天皇とは**
**この崇道天皇という名前、実は歴代天皇の系図のどこにもありません。**
崇道天皇・・・桓武天皇の弟の**早良（さわら）親王**です。
現在この方は**大怨霊**とされています。

**○崇道天皇が大怨霊となった経緯**
**長岡京**を造営し、延暦三年（７４８年）に、桓武天皇が**まだ造営途中の長岡京への遷都を強行**していた頃のお話しです。

当時は光仁天皇の遺言で、皇太子には桓武天皇の弟・**早良親王**が立っていました。しかし、当然のことながら桓武天皇としては息子の安殿（あて）親王（後の平城天皇）に後を継がせたいと思ってたのです。親としては当然のことではありますが、悲劇はここから始まります。

そんな折、奇しくも「**新都の造営長官が暗殺される**」という大きな事件が起こります。
暗殺されてしまったのは桓武天皇が大事にしていた部下で、**藤原種継（ふじわらのたねつぐ）**でした。名前を見れば分かりますが、当時に有力な権力を持っていた藤原一族の方でした。
犯人探しを始めた時に犯人候補として名が挙がったのが、当時、藤原一族と対立していた大伴一族とその関係者たち。そして大伴一族の背後には立っていたのは、天皇の遺言で、皇太子に指名されていた桓武天皇の弟・**早良親王**でした。これを好機と桓武天皇は問答無用で弟の早良親王から皇太子の身分を剥奪し、寺へと幽閉してしまいます。

幽閉された早良親王は何を考えたのか無実の訴えのため断食を行い抗議を始めました。
当然、陥れるための疑いによるものであるため、事件の疑いが晴れるわけもなく早良親王は淡路島へと流刑になってしまいます。ところが無実の訴えからずっと食事をしていなかったため淡路島へとたどり着く前に早良親王は亡くなってしまいます。

弟の早良親王亡き後、兄の桓武天皇は息子の安殿（あて）親王を皇太子にしてしまいます。
しかし、騒動から３年の月日がたった延暦七年（７８８年）に、桓武天皇の夫人であった**藤原旅子**が亡くなったことから恐怖が始まります。すぐあとには妃のうちのひとりが、翌年には母、高野新笠が、さらにその翌年、延暦九年には皇后と妃の二人が亡くなりました。

そしてダメ押しのように苦労して皇太子に立てた、息子の**安殿親王まで病気**になってしまいます。こうなると周りには、早良親王の怨霊が原因であるとの噂も立ち始め、桓武天皇も次は自分か…と恐怖の毎日を送ることなりました。

このままではまずいと、淡路島にある早良親王のお墓のまわりには堀を張り巡らして、怨霊が外に出ないようにしますが、効果などあるわけありません。これに加えて**飢饉・天然痘**が都を襲い、桓武天皇は**できあがって間もない長岡京を捨てる**こととなります。

**都を捨てたその後・・・**
今度は、**風水・占い・迷信・・・ありとあらゆる物を駆使して、**
東方に「**青龍＝川**」があり、
西方に「**白虎＝大路**」があり、
南方に「**朱雀＝池**」があり、
北方に「**玄武＝山**」がある。
**四神、四つの聖獣**に守られた、**完璧に怨霊を防げる土地に都を遷す**こととなります。
それらを踏まえて選ばれたのが**現在の京都である「平安京」**です。
さらに、**怨霊には荒ぶる神をあてがえばよい、**ということで、スサノヲノミコトを祀った四つの大将軍神社を都の東西南北に配置し、上御霊神社と下御霊神社に早良天皇自身を祀り、鬼門とされる北東には、幸神社（さいのかみのやしろ）・上賀茂神社・下鴨神社・貴船神社がたてまつられました。

○そして仕上げに早良親王の鎮魂を願って、天皇になったという想定で、**「崇道天皇」という追号を送り、７日間の昼夜を問わずの読経を行い**、怨霊問題が解決へと繋がるのです。

○現在ではこれらのことは関係なくなり、私たちの住んでいるこの世界である、煩悩で溢れた「此岸」、で布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の「六波羅蜜」の修行を行い「彼岸」に行くための修行を行う期間となりました。

現在浄土宗で行われている彼岸法要は、法然上人が師となされた、善導大師の著書『観経疏』の「日想観」が根本となっています。善導大師は春分、秋分の日は、太陽が真東から昇り、真西に沈むところから、その陽の沈みゆく西方の彼方にある極楽浄土に思いを凝らすのに適していると説かれました。
その為、お彼岸はこの念仏法要を行い、極楽浄土や先に行かれたご先祖様を慕い、念仏を行うことを目的とした仏事となっています。

参考
http://slacker.sakura.ne.jp/dayofday/archives/186